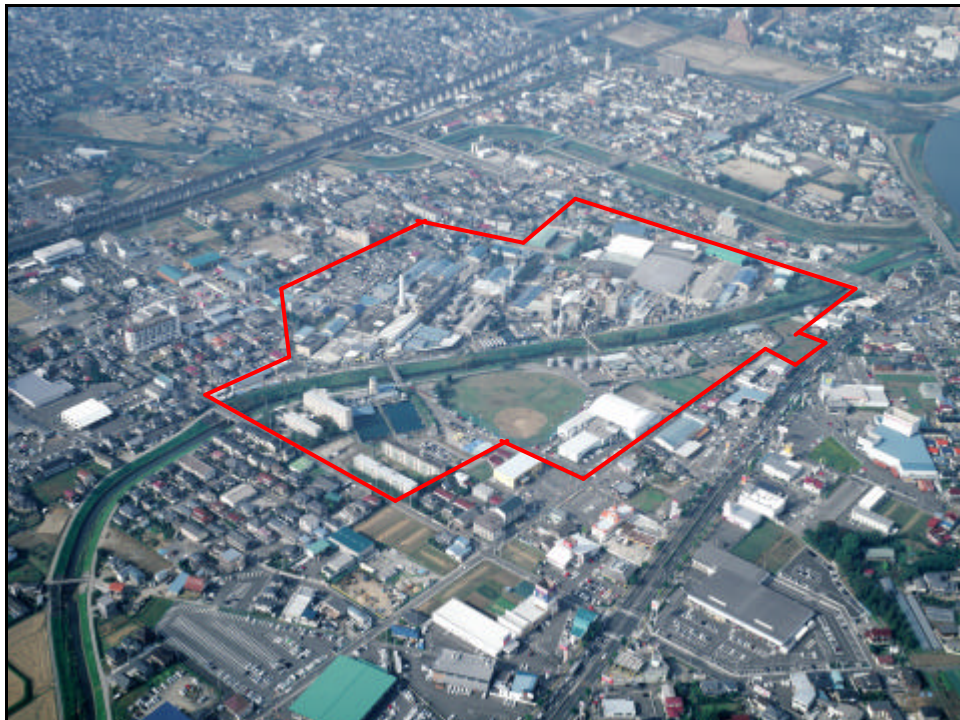


日東紡 福島工場 第二工場

リスクコミュニケーション



総務部 施設課 渡邊





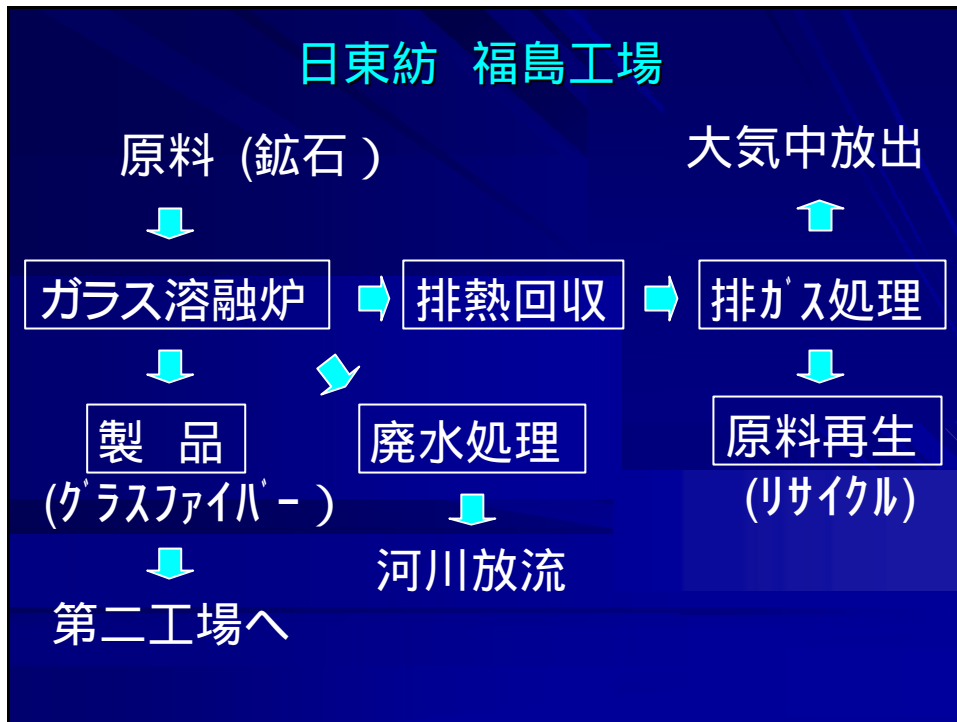
日東紡 福島工場と第二工場概要

福島工場
第二工場

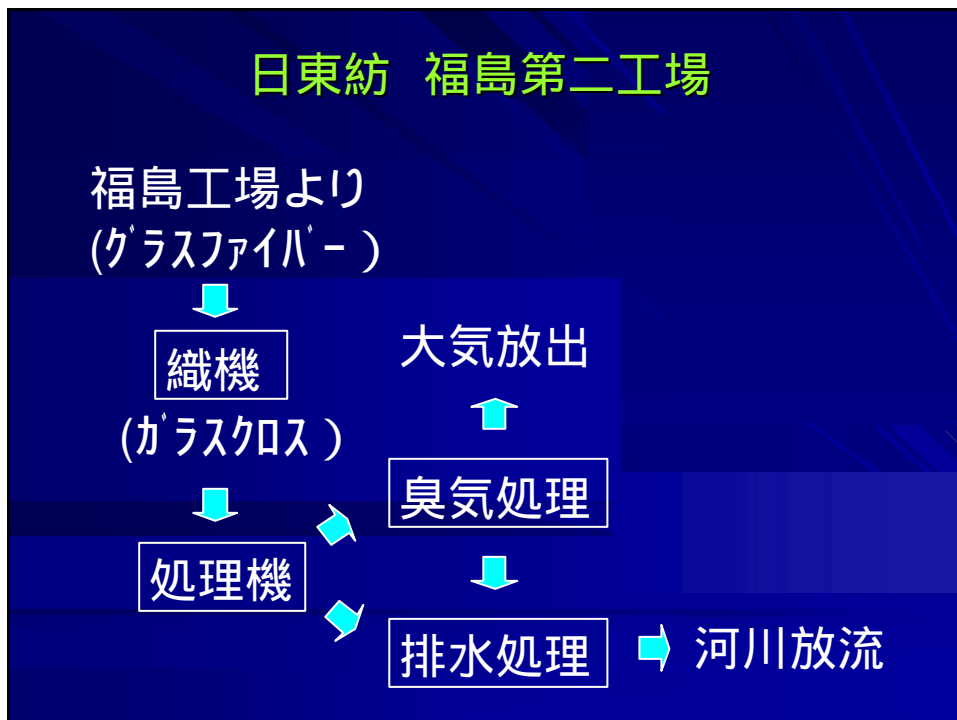
グラスファイバー
ガラスクロス



日東紡 福島工場



日東紡 福島第二工場



リスクコミュニケーション事例

モニター委員会

福島工場 鳥谷野 郷野目地区

第二工場 佐倉地区

福島工場ではグラスファイバー創業
以来35年継続実施

出席者は地区の会長及び区長をはじめとし、
女性も含めて40名程度で実施

日東紡 福島工場

平成18年 8月 8日(火)16:30~

総務 二階会議室にて

鳥谷野地区(第68回)

郷野目地区(第52回)

モニター委員会開催

日東紡 福島第二工場

平成18年 8月 18日(金)16:00~

第二工場 会議室にて

佐倉地区モニター委員会開催

報告内容

環境測定結果報告

工場から排出される排水、排ガスデータを始め、騒音、振動の測定結果を報告

LTP測定結果報告

工場から化学物質の代表であるフッ素の放出総量の結果について報告

その他、工場環境情報

地域に対する考え

使用量抑制

化学物質は出来る限り使用しない

排出量抑制

排出分を出来る限り抑制する

再資源化増量

排出分は出来る限りリサイクルする

化学物質削減対策

ガラス溶融炉へのフッ素使用量削減

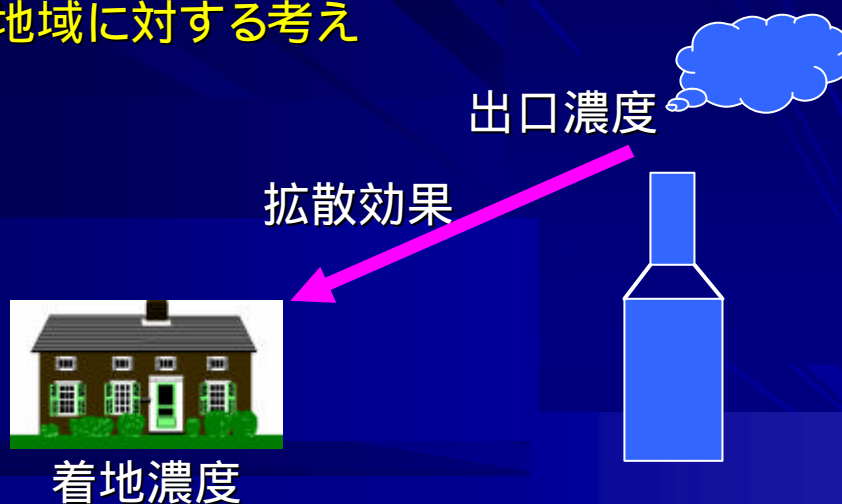
ジクロロメタンの使用廃止

自社リサイクルの促進

グラスファイバー 不良ガラス繊維をパウダー化して再使用

再生原料 排ガス処理で吸着したものを脱着 精製し 再度原料として使用

地域に対する考え



着地濃度の測定が必要。(測定困難)
それを可能とした方法がLTP測定法

LTP測定法

Lime Treated Filter Paper Method

石灰水に浸して、乾燥させた濾紙を大気中に放置して、濾紙に吸着したフッ素を測定する方法。長期間におけるその地域の暴露量を測定できる方法である。

自然採取法であり、風向き等の影響を大きく受ける欠点もあるが、それが実際の蓄積量となることから採用。

LTP測定法 (サンプリング装置)



LTP測定法 $\mu\text{g} / \text{cm}^2 / \text{月}$ (1ヶ月間に 10cm^2 の濾紙に何 μg のフッ素吸着量が測定。)

何 μg 以下が安全という規制値はないが昭和30年代後半から40年代にかけて問題となった福島県喜多方市の某アルミニウム精錬工場でのフッ素の排出量は、LTP法において $10,000\mu\text{g}$ 以上の数値となった。

工場付近では $20 \sim 40\mu\text{g}$ 程度、遠方地区でも $10\mu\text{g}$ 程度はある。(自然界にフッ素は存在するため)

地域に対する考え

環境設備を実際のもので見る事による確認
工場の環境設備見学会実施





工場見学における説明

工場から放出される煙について

煙ではなく、水蒸気です。

ガラス炉から出た排ガスは排熱回収した後
150 前後の排ガスを水溶液の水酸化ナト
リウムで吸着処理方式を採用しています。

そのため、煙突出口では水蒸気が発生します。



工場見学における説明

工場から放出される排水について

廃水処理において処理した廃水



限りなく河川水に近い状態まで処理



廃水を鯉の育成用水として使用



モ二夕一 委員会式次第

1)工場環境報告

工場概要説明

工場環境保全活動報告

工場見学

2)懇親会

工場長挨拶、工場関係者自己紹介

区長挨拶、乾杯

懇親会

閉会



地域住民からの意見

環境測定結果の報告においても苦情はなし

「第一工場でのグラス
ファイバーの製造工程
見学がしたい」

「我々、素人でも理解
できるグラスファイバー
の工程図が欲しい」



もうひとつのリスクコミュニケーション

工場における環境保全活動の見学会

リスクコミュニケーションとして、地域だけで
なく、広範囲に環境啓蒙活動を推進。

近所の小学生の見学会、中学生の職場
体験学習並びに環境保全活動の説明及
び他企業からの県学者を積極的に引き
受け実施中。

実施例

平成18年 7月12日(水)

10:00~16:00

総務 二階会議室にて
福島県郡山市第二中学校

2年生4名

職場体験学習

廃棄物の分別・圧縮作業と
排水水質の分析作業実施。





実施例

平成18年 9月 8日(金)

9:00~12:00

福島工場 講堂にて
福島大学附属中学校

1年生 65名

環境保全活動の説明

廃棄物の分別状況並びに排水・排ガス処理
省エネルギーについて説明。







以上が弊社におけるリスクコミュニケーション事例です。

11月17日(金)には山形県内の企業230社で構成されている山形県環境保全協議会が来場を予定しています。

工場の環境保全活動見学を希望の方は
日東紡 福島工場 総務部 施設課 渡邊迄
TEL 024-546-3136
E-mail watanabekun@jn.nittobo.co.jp